

考え、議論する道徳の授業と評価

－多様な教材を活用した考え、議論する道徳の授業を中心に－

小学校では平成30年度から、中学校では平成31（令和元）年度から、「特別の教科 道徳」（道徳科）が全面実施となりました。

今回の改正では、いじめの問題、暴力行為等、諸課題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることなどが示されました。

道徳教育リーフレットVでは、シリーズのまとめとして、今回の改正で示された発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図る道徳の授業のポイントと指導事例を紹介します。

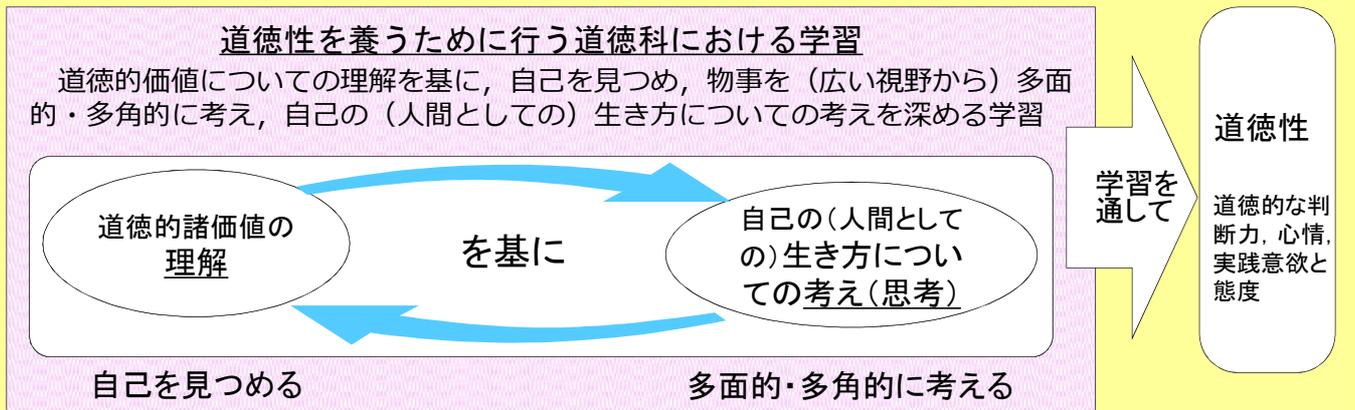
【ポイント1】道徳科の目標について確認しましょう。



考え、議論する道徳への転換を図るためには、道徳科の目標を理解し、その目標を踏まえて授業改善を図ることが大切です。

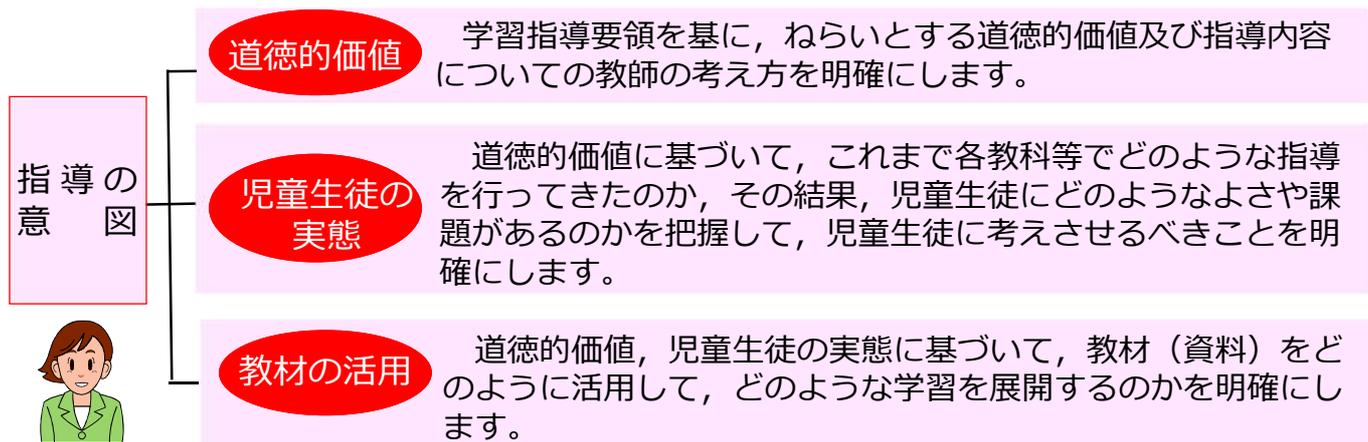
【道徳科の目標】

（前略）、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（中学校：広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（中学校：人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。（学習指導要領解説 特別の教科 道徳編から）



【ポイント2】考え、議論する道徳の授業にするために指導の意図を明確にしましょう。

児童生徒が考え、議論する道徳の授業を展開していくためには、授業者が道徳科の目標を踏まえ、「明確な指導の意図」をもつことが重要です。授業者が「明確な指導の意図」をもつことによって、道徳の授業で期待する児童生徒の学びの姿が具体的にになります。



【ポイント3】一人一人の児童生徒が考え、議論する時間を設定しましょう。



考え、議論する道徳

考える
主体的に
自分との関わりで

自分の考え方、感じ方
を明確にする

(例) 一人一人の児童生徒が道徳的な問題について考える時間を設定する。

多様な考え方、
感じ方と出あい
交流する

自分の考え方、感じ方
をより明確にする

(例) 一人一人の児童生徒が道徳的な問題について考えたことをペアやグループ等で交流する時間を設定する。

◆ 3つのポイントを踏まえた考え、議論する道徳の指導事例



中学校第3学年 第27回道徳科 主題名：相手の気持ちを考える
教材名：「言葉の向こうに」（「私たちの道徳」文部科学省）
内容項目：B - (9) 相互理解・寛容

道徳的価値

人には、それぞれ自分のものの見方や考え方があり、個性がある。大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。他者に学ぶことの大切さに気づき、他者の助言や忠告に耳を傾ける寛容の心を育てることで、他者の多様な個性を認め、受け入れ、互いに学び合おうとする態度につなげる。

生徒の実態

中学生になるとパソコンを使用する機会も増え、関心のあるサイトを見つけて、ネットで交流を楽しんだり、情報交換したりする経験をもつ生徒も出てくる。様々な情報を入手したり、顔の知らない人々と交流したりすることで、ネット社会の魅力を体験すると共に、様々なトラブルに出会うことも多い。

教材の活用

互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てたい。また、自分の発する言葉の先に、それを受け取る「顔を持った他者」がいることを「役割演技」を通してリアルに体験し、場面を想像することで、ネット社会におけるよりよいコミュニケーションのためにどうすべきか考えさせたい。



本時ねらい



それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする態度を育てる。



◆ 教材名：「言葉の向こうに」【教師の主な発問と生徒の反応】

過程	主な学習活動と教師の発問	生徒の反応	指導上の留意点
導入 ⑩	1 学級のネット利用状況と問題点を知る。 【一斉】 ・ 困ったこともあるのになぜそれでも使うのだろうか。 ネット上の人と交流するとき大切なことは何だろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットを利用している生徒が多い。 ● 私も似たような原因で困っているなあ。 ● つきあい方に課題がある場合もありそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査の結果を提示し、ネットと生活を振り返らせる。便利さの裏にある困り感に気付かせ、生徒一人一人の道徳的な問題意識を高める。
展開 ⑩	2 「言葉の向こうに」を読み、印象に残ったところを発表する。【一斉】 ・ 「問題がある」場面はどこですか？ 3 やりとりの一場面を演じて、それぞれの気持ちを考える。 【班→個→一斉】 ・ それぞれの立場になったときにどのようなことを感じましたか。 ・ なぜそれぞれ立場の人は感じ方が違うのでしょうか。(価値観) 4 問題点と解決策を考える。 【個→班→一斉】 ・ 問題点は何でしょうか。また解決するには、どうすればよいと思いますか。 ・ 相手の顔を見ている状態でも、同じようなことを言えますか。 ・ あなたがなり得る立場は、どれだと思いますか。 5 「わたし」の発言から考える。【個】 ・ 「私」は「いちばん大事なことを忘れていた。」と言っているが、どんなことを忘れていたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットではよくあることだが、改めて怖いと思った。 ● ファンサイトに悪口を書いているところが気になる。 <私の立場から> ● 悪口を書くなで最低！ ● ひどい人たち！ <交流者の立場から> ● 同じような考えの人がいるからもっと書きたい。 ● 批判してすっきりする！ <閲覧者の立場から> ● 見ていてイライラする。 ● A選手はそんな人なの？ <課題→解決策> ● 何でも言っている →相手の気持ちを考える。 ● 価値の押しつけ →違う意見に左右されない。 ● 相手を思いやること。 ● 物事に対する感じ方、考え方はそれぞれ違うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 印象に残ったところ、気になったところに線を引くようにさせる。道徳的な価値に近づけるように、焦点化させる。 ● 役割演技でどの立場も演じ、感じたことを具体的に記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ 役割演技カード ● 閲覧者の助言を踏まえ、何が問題なのか考えさせる。また、誰もがどの立場にもなり得ることに気付かせる。 ● 書き込みをしていた序盤からの気持ちの変化を確認し、ネット利用の際の大事なことに気付かせる。
終末 ⑩	6 ネット上で交流するとき何を大切にしたらよいか、これからについてワークシートにまとめる。【個】 ・ いろいろなものの見方や考えがあることを理解して交流する。 7 教師の説話を聞く。【一斉】	<ul style="list-style-type: none"> ● 文字だけでなく、相手の顔や気持ちを想像しながら使用すること。 ● お互いの考えを尊重しながら交流すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自由記述で振り返らせることで、自分の生活に生かすことを考えさせる。 ● 日常生活とネット上のコミュニケーションについて説話する。

【板書】





◆ 教材名：「言葉の向こうに」【授業の記録】

考え、議論する生徒の様子 (写真・発問等)

1 SNS等の利用状況について知る。



〈困ったことがある理由〉
気持ち
暴言が書かれたりしている
文字だけだと相手はどういう気持ちで送ったのかわからないときがある

〔提示したアンケートの様子〕

2 「言葉の向こうに」を読み、印象に残ったところを発表する。



3 やりとりの一場面の「役割演技」を通して、それぞれの気持ちを考える。



役割演技の登場人物



役割演技の進め方



役割演技の様子



それぞれの気持ちの発表

〔考え、議論する生徒の様子〕

4 課題と解決策を考える。

- 相手の顔を見ながら同じようなことを言えるか。また、交流者はなぜ書いてしまうのか。



5 「わたし」の発言から考える。

- ネットに書き込んでいるときに、相手がいることを忘れた経験が自分にもないか。

6 ネット上で交流するとき何を大切にしたらよいか、本日の学習を振り返り考える。

- ネットの交流と、実際に話をするこの違いは何なのだろうか。また、同じことは何なのか。

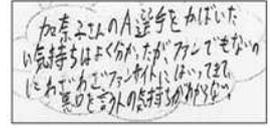
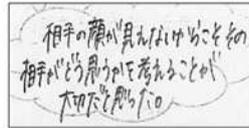
7 教師の説話を聞く。

評価の視点、見取った方法

1 提示資料からの生徒の反応を見取り、道徳的な問題意識を高めようとしたか。

- ネットを利用している人が多い
- 困り感を持っている友達もいる。

2 「言葉の向こうに」を読み、感じたことや考えたことを記述しようとしたか。



3 「役割演技」に意欲的に取り組み、それぞれの立場の気持ちを考えようとしているか。

「わたし」はA選手のファン、Aのチームの活躍と勝利についてコメントをした後、しばらくすると、次のような書き込みがされていた。

交流者B	Aは最低の選手。あのゴール前はファールだよ。するいやつ。
交流者C	人気があるから愛されているんだろ。だいたい才能ないのにスター気取りだからな。
わたし(加奈子)	負け惜しみなんて最低。悔しかったら、そっちもゴール決めたら。
交流者B	向こうの新聞にも、Aのフレイが書いて、批判が出ている。おまえ、英雄請めないで。
交流者C	Aのファンなんて、サッカー知らないやつばかり。ゴールシーンしか見てないんだな。
交流者B	Aはわがままぶりがチームメートからも嫌われているんだよ。

〔役割分担カード〕

わたし(加奈子)	交流者B	交流者C	ファンサイト閲覧者
・ 相手の顔を見ながら同じようなことを言えるか。また、交流者はなぜ書いてしまうのか?	・ Aは最低の選手。あのゴール前はファールだよ。するいやつ。	・ 人気があるから愛されているんだろ。だいたい才能ないのにスター気取りだからな。	・ 負け惜しみなんて最低。悔しかったら、そっちもゴール決めたら。
・ 「わたし」の発言から考える。	・ ネットに書き込んでいるときに、相手がいることを忘れた経験が自分にもないか。	・ 「言葉の向こうに」を読み、感じたことや考えたことを記述しようとしたか。	・ 「役割演技」に意欲的に取り組み、それぞれの立場の気持ちを考えようとしているか。
・ ネット上で交流するとき何を大切にしたらよいか、本日の学習を振り返り考える。	・ ネットの交流と、実際に話をするこの違いは何なのだろうか。また、同じことは何なのか。	・ 教師の説話を聞く。	・ 交流する相手との適切な距離感に気付いたか。また、「大事なこと」はネット上だけのものではなく日常生活でも同じことに気付いたか。

4 閲覧者の「挑発にのらないで」の真意をくみ取ろうとしているか。

- ☆ 誰もがどの立場にもなり得ることに気付いたか。

5 「何が大事なのか」考えさせる。

- ☆ ネット上の交流の特性も踏まえながら考えようとしているか。

6 考えを自由記述させる。

私の好きがルールアップと批判されているのを見れば、ルールして、人はみんな価値観も考え方が違って、考えている。高てもいいと、悪いことを、教えられるようにしたい。

ネット言葉に責任を持ち、相手と自分は意見が合うというのを理解して、発言する。相手の気持ちを考えることは、ネット上だけの自分の生活で、そのことと、相手の生活に繋がって、いいことと、悪いこと。今日の授業で学んだこと。

7 教師の説話を聞かせる。

- ☆ 交流する相手との適切な距離感に気付いたか。また、「大事なこと」はネット上だけのものではなく日常生活でも同じことに気付いたか。